

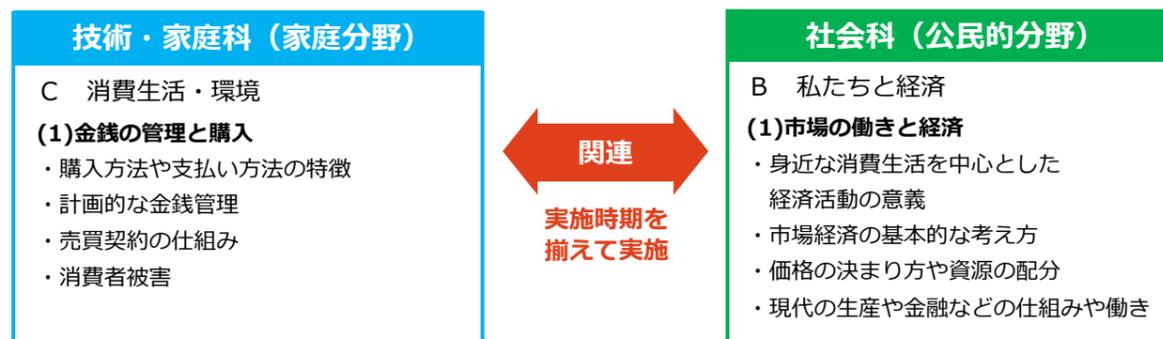
中学生にとって、実際の消費生活の中で「お金を支払う」場面は決して多くない。そのため、「消費生活」の学習内容を自分の問題として捉えさせるためには、工夫が必要である。ここでは、社会科の公民的分野と関連を図り、「自分の消費生活と社会経済とのつながり」について理解を深めながら授業を進めたり、銀行勤務経験者から、消費者トラブルなどの具体的なエピソードを聞く場面を設けたりして、「自分とお金との関わり」について、現実社会とのつながりを捉えられるようにした実践を紹介する。

POINT 1 社会科(公民的分野)との関連付け

「消費生活」と「私たちと経済」を関連付けて深める

社会科(公民的分野)と、学習する時期を揃えて年間指導計画を立案

「C 消費生活・環境」についての単元『上手にお金を使うには?』は、第3学年で実施。社会科と関連付け、経済についての内容を学習する時期と揃えて年間指導計画を立案。特に、「身近な消費生活を中心とした経済活動の意義」「価格の決め方」「金融の仕組みや働き」などの社会科的な視点を、家庭科で学習する自分の「金銭の管理と購入」の学習に活かしていけるようにした。



実践者に聞く! エピソード紹介

● 始まりは、社会科の授業参観

自分の指導力の研鑽の目的もあって、自分が担任をしているクラスの様々な授業を参観していたところ、特に社会科の学習内容は、家庭科の内容ととても関連が深いことに改めて気が付きました。特に、中学3年生の家庭分野の授業時数は少ないので、消費生活の内容をどのように詳しく扱おうかと考えたときに、社会科と関連を図ることで、工夫できると思いました。

● 職員室の「隣同士」を活かした情報共有

社会科担当の教員とは、持ち上がりで同じ学年を担当しており、「お互いの専門性を活かして、生徒の理解を深めたい」という思いは共通していました。職員室での席が隣同士ということもあり、年度当初に年間指導計画を合わせた後は、特別な打ち合わせの場を設けることなく、席での会話の中で、「私は今日、こんな内容で授業をしました。生徒は〜でした」「だったら次の社会科では、こんなところまで踏み込んで説明しますね」と、授業における生徒の反応を共有し合い、次回の授業展開や取り上げる内容を調整しながら指導を進めることができました。

POINT 2 専門家の活用 — お金の専門家が語る出張授業

銀行勤務経験に基づく具体的な話が、生徒に響く!

お金の専門家が語る『社会におけるお金の流れと消費者トラブル』

単元の中盤に、お金の専門家(銀行勤務経験者)を講師として招き、『社会におけるお金の流れと消費者トラブル』という授業を実施。2コマ連続の授業で、1コマ目は主に専門家による講話。銀行の勤務経験に基づく具体的なエピソードをもとに、「消費者トラブル」について語ってもらった。

【学習の流れ】



2コマ目は、生徒にさらに自分に引き付けて考えさせるために、自分の未来を考えるワークを実施し、中学卒業後の進路でかかるお金について考えることで、金融の必要性を改めて実感させた。その場面では、ティームティーチング形式として社会科教員も参加し、「財やサービスの購入を通じた経済の循環」について解説し、「自分とお金との関わり」について、現実社会とのつながりの中で捉えられるようにした。

実践者に聞く! エピソード紹介

● スクールサポーターの熱意と学校長の采配

本事例で講師を依頼した専門家は、定年まで銀行に勤めており、現在は本校でスクールサポーターとして勤務されている方です。毎日生徒を支援しているうち、「この子たちに、自分の経験を踏まえ、お金に関わることを伝えたい」という熱い思いがわきあがり、校長先生へ「生きていくために欠かせないお金について、授業で子供たちに話す機会をいただきたい」と相談がありました。校長先生は、「せっかくの経験を生徒に直接伝えられる機会となり、子供たちの学習にも効果があるだろう」と、家庭科教員に声をかけてくださいました。

● 綿密な打ち合わせで、生徒の実態に応じた出張授業が実現

スクールサポーターとして、同じ学校に勤務しているからこそ、綿密に打ち合わせを行うことができ、生徒の実態を踏まえた、より理解しやすい内容の授業にすることができました。

【打ち合わせ】

- 1回目：専門家が準備してきた講話の概要をもとに話し合い、1コマ目に講話、2コマ目は家庭分野の教員主導のワークを実施することで、構成を決定。
- 2回目：専門家作成のスライド案を確認。家庭分野の学習内容の視点での内容の精選と、生徒との対話がある双方向型の授業となるように改善を依頼。
- 3回目：改善したスライド案を確認。クイズ部分など、想定される生徒の反応を話しながら、中学生がわかる説明となっているかなど、伝え方の工夫を相談。
- 4回目：専門家が伝える内容「金融の仕組み・働き」について、一方的な知識提供にならないよう、家庭分野の教員からゲーム型の副教材の活用を提案。
- 5回目：リハーサルを行い、話の軽重などを整理。

単元計画 『上手にお金を使うには？』

■単元の目標

【知識及び技能】

購入方法や支払方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組みについて理解するとともに、自分の購入の意思決定に必要な情報の収集・整理が適切にできる。

【思考力、判断力、表現力等】

自分の購入の意思決定に必要な選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想、評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

自分の購入の意思決定に向けて、主体的に取り組んだり、ふりかえって改善したりして、自分の生活の充実、向上を図るために実践しようとする。

■単元計画

単元を通した問いとして、『上手にお金を使うには？』を設定。生徒が実際に購入する身近な場面を取り上げながら、「もし〜だったら？」と学習を進め、「上手にお金を使えるようになる」ことを目指した単元。

単元の始めは、生徒に、最近購入したものを挙げさせ、それらを黒板に列記し、見えるもの（物資）、見えないもの（サービス）に大別していく。

インターネットで購入する場合と地域の店舗で購入する場合について、具体的な支払場面を想起させ、現金による即時払いとクレジットカードによる後払いの利点及び問題点を整理していく。

お小遣いが電子マネーの生徒も増えてきている。見えないお金を見る化して管理することの重要性を伝える。

専門家の活用と社会科教員の協力によって、それまでの学習内容と社会とのつながりに気づかせていく。

単元の学習のまとめとして、生徒が自分が今一番ほしいものを購入する場合を想定し、どんなことに注意する必要があるのかを考えさせる。

時数	学習内容
4	<p>●単元を通して考える問いの提示 「上手にお金を使うには？」</p> <p>あなたが最近購入したもの、利用したものは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物資・サービス、売買契約の仕組み ● 消費者、未成年者の契約 <p>あなたは、どこで購入することが多い？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 購入方法の特徴 ● 支払い方法の特徴（店舗、無店舗販売） ● 売買契約の仕組み、クレジットカード <p>それ、本当に必要？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 計画的な金銭管理の必要性 ● 収支のバランス、優先順位 ● 生活に必要な物資・サービスの金銭の流れ
2	<p>社会におけるお金の流れと消費者トラブル</p> <p>★専門家の活用 ★社会科と関連付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実際の契約・クレジットカードなどにおける ● 若年層が巻き込まれがちなトラブル
2	<p>こんな声をかけられたら、どうする？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 消費者被害の背景、対応 ● 物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 <p>今、一番ほしいものを購入するとしたら、どう考えていく？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 意思決定のプロセス

単元の学習内容：(1)金銭の管理と購入
※(2)消費者の権利と責任は、別の単元として扱う

本時の授業展開

銀行勤務経験のある専門家からの講話の後、自分の未来を考えるワークと、チームティーチングによる社会科教員からの解説を通して、「自分とお金との関わりは、社会ともつながっていること」を捉えさせていった。

■本時のねらい

- ・「自分とお金との関わり」について、専門家による講話を通して若年層が巻き込まれがちなお金に関するトラブルを知ったり、社会科で学習する経済についての学習と関連付けて考えたりすることで、現実社会とのつながりの視点で理解を深める。

■本時の展開

(45分×2コマ)

過程	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	<p>●生活をするのに、どれくらいお金がかかるのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 計画的な金銭管理（ふりかえり） ● 講師紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学習をふりかえり、金銭管理の重要性を確認し、講話につなぐ。
展開 ① 25分	<p>講師（専門家）による講話</p> <p>○社会で生きていくのに必要なお金</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 契約、生活に必要なお金 ● お金に関するトラブル ● 成年年齢引き下げに伴う注意点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「お金の専門家」だからこそその講話をしてもらう。
展開 ② 10分	<p>講師と教員によるワーク</p> <p>○知っておきたい金融知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 金融の仕組みや働き ● 預貯金、債券、株式 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲーム型の副教材を活用したワークを通して理解を深める。
まとめ 5分	<p>○質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講師への質問 	
導入 5分	<p>●中学校を卒業したら……？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの希望進路によって、生活にかかる費用や収入が異なることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1コマ目の学習を活かし、自分の未来を考えることを伝える。
展開 ① 10分	<p>○自分が描く未来の進路で必要なお金を計算してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人で考える ● グループで交流する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 未来の自分の生活に必要なお金を計算する。
展開 ② 20分	<p>★社会科教員</p> <p>○経済は循環する？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 銀行の役割、労働による収入、財やサービスの購入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の学習の流れを踏まえつつ、社会科の既習の学習内容を確認する。
まとめ 10分	<p>○様々な話を聞きながら、自分とお金について考えたことを書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時(2コマ)の学習をふりかえり、「自分とお金との関わり」について、現実社会とのつながりの視点で深めた自分の考えを記述させる。

ゲーム型の副教材を使うことで、中学生に馴染みがなく、理解が難しい内容について、一方的な講話にならないよう工夫している。

自分が描く未来について、お金の側面から考えさせることで、より自分事として捉えさせる。

生徒の進路について共有させる場面では、プライバシーに十分配慮する。

本時(2コマ)の学習をふりかえり、「自分とお金との関わり」について、現実社会とのつながりの視点で深めた自分の考えを記述させる。